

# JUKI CORPORATION Environmental Report 2013

JUKI 環境報告書2013



## Contents

- 02 JUKIグループの企業理念
- 03 トップメッセージ
- 04 JUKIグループの概要
- 05 マネジメント体制  
環境報告
- 06 環境ビジョン
- 08 Chapter I ものづくり
- 14 Chapter II エコプロダクツ
- 15 Chapter III マネジメント・パフォーマンス
- 18 ステークホルダーの皆様との信頼関係づくり
- 19 お客様・取引先とともに
- 20 従業員とともに
- 21 株主・投資家とともに  
地域社会とともに

# JUKIグループの企業理念

全世界に広がるJUKIグループすべての従業員が、グループが掲げる企業理念、経営基本方針、社員行動指針のもと、より優れた製品の研究、開発、製造、サービスの提供に努めています。

## コーポレートスローガン

# Mind & Technology

心の通う技術とお客様第一主義で社会に役立つ製品を創造します

### 企業理念

JUKIは、ここに集い、  
人々のしあわせを実現し、  
社会に貢献する

JUKIは、技術を創造し、  
進化させ、  
新しい価値を  
生み出す

### 経営基本方針

総合品質経営を推進する

柔軟で芯の強い人と  
組織をつくる

国際社会に適合する  
経営を行う

### 社員行動指針

お客様の立場にたって考え、  
スピーディーに行動する

自らの目標をたて、役割を  
果たし、それをさらに広げる

誠実な国際人として  
行動する

## JUKI企業行動規範

JUKIは、企業理念を実現するため、ここに「企業行動規範」を制定します。

JUKIは、この行動規範に則り、全ての法律、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、社会的良識をもって行動します。

JUKIは、公正な競争を通じ会社の利益を追求するのみならず、顧客、株主、取引先、社員にとってはもちろんのこと、広く社会にとっても、存在価値のある企業を目指します。

- 1 社会的に有用な製品・サービスを安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得するように努めます。
- 2 商取引においては公正、透明、自由な競争を行い、また政治、行政とは健全な関係を保ちます。
- 3 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。
- 4 社員一人ひとりの多様性、人格、個性を尊重すると共に、安全で働きやすい環境を確保するように努めます。
- 5 地球環境を大切にし、資源の有効活用、資源のリサイクル、省エネルギーに積極的に取り組みます。
- 6 よき企業市民として、地域社会との交流を深め、地域の社会活動への参加等を通じて、広く社会貢献に努めます。
- 7 社会の秩序や企業の健全な活動に悪影響を及ぼす反社会的な個人・団体には毅然たる態度で対応します。
- 8 国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するように努めます。

万一、「企業行動規範」に反するような事態が発生したときには、経営トップは、断固として責任ある対応をします。

## 「Mind & Technology」と「お客様第一主義」の実践で 社会から信頼され、必要とされる企業を目指します

2012年は、欧州の財政危機の長期化、中国など新興国市場の成長鈍化に加え、円高の長期化等、当社を取り巻く経営環境は厳しい1年でした。こうした厳しい事業環境の中においても、持続的な成長を可能とするため、年末に「JUKI構造改革プラン」を策定し、営業・製造・開発などあらゆる面で改革を進めています。

その推進力となるのは、コーポレートスローガンである「Mind & Technology(心の通う技術)」と「お客様第一主義」の思想です。ものづくり企業として、お客様から学び、お客様とともに新たな価値をつくっていく、というお客様の視点をベースに製品・サービスの提供を続けています。

さて、このような中、JUKIが環境マネジメントシステムを構築し、2001年にISO14001認証を取得してから、今年で12年となりました。この間、お客様に環境負荷のより少ない製品を提供する、事業活動全般にわたって省エネルギー・省資源を推進する、といった活動を通じて、環境パフォーマンスとしての成果を着実に積み上げてきました。

また、環境マネジメントについては、環境として別括りにした活動ではなく、よりJUKIの本来業務と一体化することを目指して、これまで取り組んできましたが、今年の第4回更新審査を機に、更に高いレベルの環境マネジメントを目指して、新たな気持ちで取り組んでまいります。

2013年、私たちは、「JUKI構造改革プラン」を早期に実行し、持続的な成長を遂げ、これからも、社会から信頼され、必要とされる企業を目指してまいります。

今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



JUKI株式会社  
取締役社長

清原 晃

## — JUKIグループの概要 —

高い技術が生み出す高品質な製品を提供し、世界各地で豊かな社会の実現に貢献しています

### JUKI株式会社 会社概要

創立	1938年12月15日		
資本金	159億50百万円		
株式	発行済株式総数 129,371千株 東京証券取引所第一部上場	株主数 15,603名	決算期12月
売上高	490億円(2012年12月期)		
主要事業所	本社 〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1	大田原工場 〒324-0011 栃木県大田原市北金丸1863	
従業員数	1,210名		

### JUKIグループ グループ概要

連結子会社数	31社
売上高	758億円(2012年12月期)
従業員数	6,498名
事業セグメント	縫製機器、産業装置、その他

2012年12月末現在

### 事業紹介

#### 縫製機器事業

##### 世界の Apparel(衣料)生産を支える工業用マシン

Apparelだけでなく、靴、靴、家具、自動車シートなどの製造分野で広範囲に活用されています。世界約170カ国をカバーする販売・サービスネットワークで世界中のお客様から強い支持をいただいています。

##### ハイグレードな縫製機能が豊かなソーイングライフを実現する家庭用マシン

実用マシンからキルト縫いなどに適した機種、そしてプロの方の厳しい要求にも応える職業用、小型ロックマシンまで、幅広い層のお客様からの支持をいただいています。

#### 産業装置事業

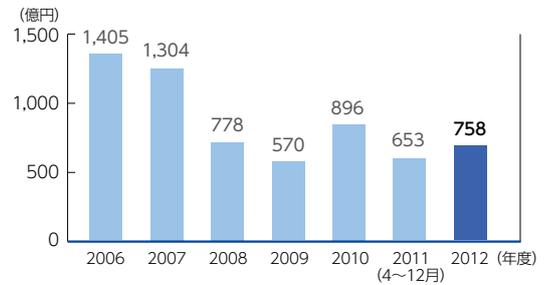
##### モジュラーマウンタのバイオニア

現在広く普及しているモジュラー方式(複数台のマウンタを接続してラインを構築する方式)を業界で初めて提唱しました。高速機「FX-3R」をはじめ、低価格チップマウンタから汎用機まで幅広い品揃えと充実したサポート・販売体制で、全世界のお客様から高い支持をいただいています。

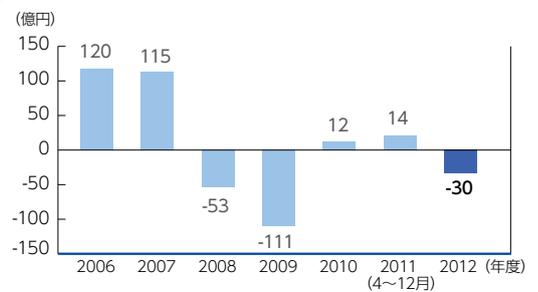
### 主なグループ会社 ■ 製造会社 ■ 販売会社など

- 重機(中国)投資有限公司(中国 上海)
- ジューキ香港(株)(中国 香港)
- 東京重機国際貿易(上海)有限公司(中国 上海)
- 新興重機工業有限公司(中国 河北省)
- 重機(上海)工業有限公司(中国 上海)
- 上海重機マシン有限公司(中国 上海)
- 重機(寧波)精密機械有限公司(中国 浙江省)
- ジューキ・ベトナム(株)(ベトナム ホーチミン)
- ジューキ・シンガポール(株)(シンガポール サイバーハブ)
- ジューキ・インド(株)(インド バンガロール)
- ジューキ・マシナリー・ベトナム(株)(ベトナム ホーチミン)
- ジューキ・マシナリー・バングラデシュ(株)(バングラデシュ ダッカ)
- ジューキSMTアジア(株)(タイ チョンプリ)
- ジューキ・セントラルヨーロッパ(株)(ポーランド ワルシャワ)
- ジューキ・イタリア(株)(イタリア ミラノ)
- ジューキ・アメリカ(株)(アメリカ フロリダ)
- ジューキ・オートメーションシステムズ(株)(アメリカ ノースカロライナ)
- ジューキ・オートメーションシステム(株)(スイス ソロトゥルン)
- ジューキ・ド・ブラジル(株)(ブラジル サンパウロ)
- JUKI電子工業(株)(秋田県 横手市)
- JUKI吉野工業(株)(秋田県 横手市)
- JUKI秋田精密(株)(秋田県 大仙市)
- JUKI会津(株)(福島県 喜多方市)
- (株)鈴民精密工業所(新潟県 長岡市)
- JUKI金属(株)(三重県 多気郡)
- JUKI広島(株)(広島県 三次市)
- JUKI松江(株)(島根県 松江市)
- JUKI販売(株)(東京都 多摩市)
- JUKIゼネラルサービス(株)(東京都 多摩市)

### 売上高(連結)

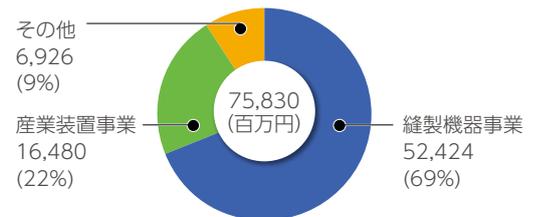


### 経常利益(連結)



当社は2011年度より、当社グループの連結ベースでの予算編成や業績管理等、事業運営の効率化等を図るため、連結決算日を毎年12月31日に変更しました。これに伴い、その経過期間となる2011年度は、2011年4月1日から2011年12月31日までの9か月決算となっています。

### セグメント別業績 売上高(2012年度)



— マネジメント体制 —

# ガバナンス体制の充実、コンプライアンスの強化に努め、透明性の高い経営を目指します

## コーポレート・ガバナンス

JUKIは、経営の健全性・効率性を確保する観点から、コーポレート・ガバナンス体制の適切な維持・運用を最重要課題のひとつと位置づけ、その整備と充実に努めています。また、適時かつ正確な情報公開を通して、経営の透明性を高めてまいります。経営戦略会議には、取締役をはじめ、執行役員や部門責任者も出席し、経営に関する基本方針などについてさまざまな角度から審議しています。当社の内部監査の組織としては、監査部を設置しており、当社各部門および子会社に対する業務監査を行っています。また、監査役監査は、監査役会が定めた監査方針、業務分担などに従い、監査部および会計監査人と連携を取りながら実施しており、監査役を補佐する組織として監査役室を設置しています。

## コンプライアンス

JUKIグループは、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある企業グループであり続けることを目指して、コンプライアンスを重要な経営基盤と位置づけています。JUKIの従業員はもちろんのこと、グループ会社の役員および従業員は、法令順守や良識を持った行動などについて解説されている「JUKI役員・社員行動規範」に則って行動するよう、教育で徹底するとともに、従業員からの相談・疑問などに対しては、JUKIおよびグループ会社に相談窓口を設置して迅速に対応しています。また、コンプライアンスに関わる重要なリスクについては、リスク管理会議において管理しています。

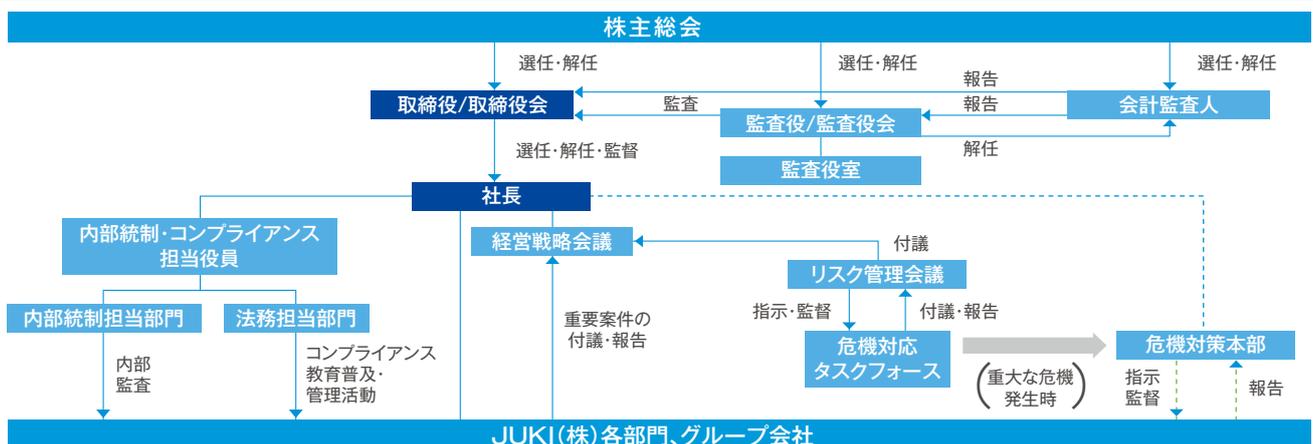
## 金融商品取引法への対応

財務報告の信頼性確保を目的として、2008年4月より、金融商品取引法に基づく「内部統制報告制度」が導入されました。JUKIはこの対応として、金融庁の基準などに示されている内部統制の基本的枠組みに準拠し、財務報告の信頼性に係る内部統制を整備、運用しています。具体的には、毎事業年度末におけるJUKIグループの全社的な内部統制について、整備、運用状況の有効性評価を実施しています。さらに同制度に基づき、JUKIおよび国内外の主要なグループ会社を対象として、販売、生産、経理、ITなどの業務プロセスの内部統制について有効性の評価を実施しています。2013年度は、2012年度を継承する中で、一層効率的で漏れの無い評価を実施してまいります。

## リスクマネジメント

JUKIグループではリスク管理体制として、リスク管理会議を設置しています。リスク管理会議においては、全社的リスクおよび重要リスクについて管理し、必要な場合はリスク低減のための改善対策を取ることを指示しています。また、天災、火災や爆発、PL（製造物責任）に関わる問題、工場廃水による環境問題などの危機の発生（リスクの顕在化）に備え、危機対応タスクフォースを設置し、対応措置を検討、実行できる体制を整備しています。また、重大な危機が発生した場合は、「危機対策本部」を設置し、迅速な危機対応ができる体制となっています。

■ コーポレート・ガバナンス体制図



# 環境に配慮したものづくりを通じて、 お客様、地球環境に貢献していきます

JUKIグループでは、ものづくり企業として地球環境を大切に、資源の有効活用、リサイクル、省エネルギーに積極的に取り組み、安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供し、地域の産業発展に貢献することで、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指します。

## 環境ビジョン

### JUKIグループ環境保全活動の考え方

JUKIグループでは各事業に伴う環境負荷を低減し、持続可能な社会の構築を目指して「環境理念」「環境行動指針」を定めています。これに基づき、「環境保全ガイドライン」を策定しています。また、情報交換ならびに水平展開を行い、グループ全体のレベルアップを図っています。



### ECO MIND宣言

#### 環境理念

JUKIグループは、企業活動が広く地球環境と密接に関わっていることを認識し、

1. 環境に配慮した企業活動により、地域と社会に貢献する。
2. 環境にやさしい製品を世界の人々に提供する。
3. 持続的な活動を通じて、よりよい地球環境を次世代にひきつぐ役割を果たす。



#### 環境行動指針

1. 事業活動全般にわたって省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に努める。また3R(リデュース・リユース・リサイクル)の実践により資源の有効利用を図る。
2. 環境への影響に配慮した企画、研究、開発、調達、生産を行い、より環境負荷の少ない製品を提供する。
3. グローバル企業として、事業展開する全ての国や地域の特性に応じた環境保全活動を通して、その国や地域に貢献する。
4. 環境関連法規制及び同意するその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染を予防する。
5. 環境情報の公開を積極的に行う。
6. 教育・啓発活動を通じ、社員一人ひとりは「環境意識」の向上を図り、環境保全活動を実践する。

## 環境に配慮したものづくり

JUKIグループは、ものづくりのすべての段階において、環境負荷の低減に取り組むとともに、製品使用時の環境負荷低減にも貢献していきます。

また、グループ各社の環境推進体制のもとで、環境管理責任者を置き、環境活動への取り組みを推進、継続的な改善を図っています。



p 8

### Chapter I

## ものづくり

ものづくりのすべての段階で、環境負荷の低減を目指しています。



p14

### Chapter II

## エコプロダクツ

人に、地球にやさしく、高付加価値化を目指す製品づくりに努めています。



p15

### Chapter III

## マネジメント・パフォーマンス

グループ各社の環境推進体制のもと、環境活動への取り組みを推進しています。

# ものづくりのすべての段階で、 環境負荷の低減を目指しています

ものづくり企業として、より環境負荷の少ない製品・サービスを提供することだけでなく、バリューチェーンすべてにわたり、環境に配慮した活動が社会から求められていることを理解し、日々の事業活動に取り組んでいます。

## バリューチェーンと環境(CSR)活動

### 開発・設計



ものづくり企業として、お客様にとって「より使いやすい」「より効率的に」「より環境にやさしく」を考え、製品を開発しています。省電力、低騒音、低振動、発熱低減など、人と環境にやさしい製品を開発することで、お客様のニーズにこたえ、社会からの信頼を得られると考えています。



### 調達



JUKIグループでは、お取引先と力をあわせてグリーン調達を推進しています。「JUKIグループ グリーン調達ガイドライン」をもとに、サプライチェーンにおける有害化学物質含有量情報をお取引先から収集しグリーン調達適合化を実施しています。



### 製造



JUKI製品のものづくりの現場では、部品や材料に貴重な資源を使用し、多くのエネルギー・資源を使って生産されています。JUKIグループの各工場では、常日頃から生産の効率化、コスト削減、5Sに取り組んでいます。今後もCO<sub>2</sub>排出量の削減、廃棄物排出量の削減に努めていきます。



### 物流・販売



JUKI製品の輸送にあたって、より環境負荷の少ない輸送方法はないかを常に考え、先駆的な取り組みを実践しています。鉄道輸送へのモーダルシフト推進や、業種を超えた他社との共同物流の実施により、CO<sub>2</sub>削減に貢献しています。



### 使用・保守



JUKIグループは、JUKI製品をお使いになるお客様を第一に考えます。お客様に安心して長く製品をお使いいただくため、お客様からのお問い合わせやご要望にきめ細かく対応するサービス・メンテナンス体制を整備しています。よい製品をご提供することはもちろん、お客様が抱える問題とともに考え、その解決策をご提案することで、お客様とのよい関係を築いていく努力を続けています。

## 開発・設計

# 環境に配慮した開発

設計の段階から、環境に配慮した製品開発を行うために、製品環境アセスメントシートによるチェックを行っています。主要な法規制への対応状況、製品の消費電力低減や騒音・振動の低減等、環境に配慮するさまざまなアセスメント項目によるチェックを経ることで、より環境負荷の少ない製品を提供できると考えています。

また、技術開発部門を中心に、本社で使用される化学物質についても適正に管理し、洗剤や溶剤の管理・使用とあわせて環境影響に配慮した取り組みを進めています。



## 調達

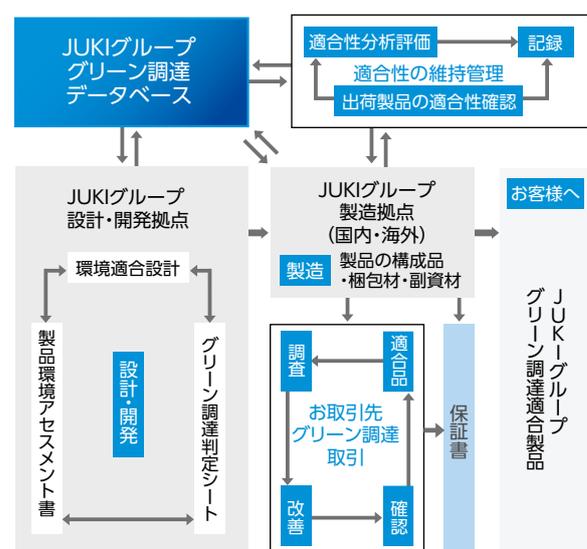
# グリーン調達

JUKIグループでは、資材お取引先とともに調達における有害化学物質の削減に取り組んでいます。具体的には、2011年よりサプライチェーンを基本にしたJAMP AIS調査ツールを取り入れ、海外拠点も含めた活動を展開しています。しかし、まだまだ課題はあり、今後もお取引先とともに理解を深め、定着化に粘り強く取り組んでいきます。

また、2011年に欧州RoHS指令が改正され、JUKIグループではその適合化を進めてきました。また、ベトナムRoHSも2011年に施行され、その適合化を実施しました。特に、ベトナムの生産拠点へは「グリーン調達教育」をあらためて実施し、グリーン調達活動強化を進めました。

今後も、EU SVHC増、CLP規則の施行、中国RoHSの次ステップへの対応整備等、各国の規制の拡大に対応していきます。

## グリーン調達の流れ



## 製造

## 化学物質の管理

JUKIグループでは、国内・海外グループ会社の製造工場にて、有機溶剤や溶剤・粉体塗料等の化学物質を使用しております。化学物質使用量の低減および化学物質含有廃棄物排出量を低減し、環境影響に配慮した取り組みを進めています。

重機(上海)工業(有)	ミシンの塗装工程で排出される粉体塗料を、塗料生産業者が回収するリサイクル活動を推進しています。
新興重機工業(有)	定期的に化学物質の保管状況をチェックするとともに、火災や環境汚染事故などの緊急事態に備えた訓練を実施しています。

## 化学物質使用量データ(2012年度)

全社集計	全化学物質		
	調達実績量 (kg)	使用実績量 (kg)	保有量 (kg)
	2,504.5	2,095.1	1,249.0

全社集計	PRTR法該当物質		
	調達実績量 (kg)	使用実績量 (kg)	保有量 (kg)
	77.5	53.9	51.8
法規判定	非該当		

全社集計	適正管理化学物質		
	調達実績量 (kg)	使用実績量 (kg)	保有量 (kg)
	38.5	37.2	38.1
法規判定	非該当		

## 製造

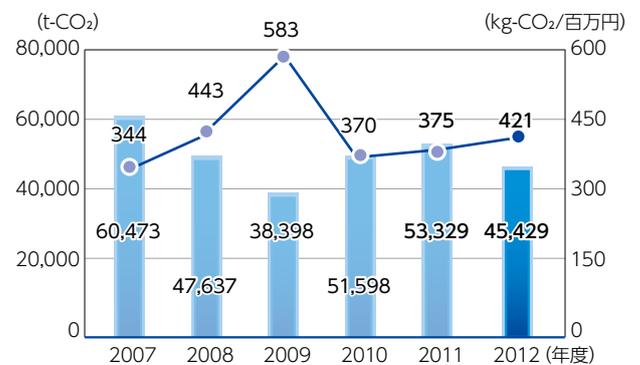
 CO<sub>2</sub>排出量の削減

JUKIグループではCO<sub>2</sub>排出要因の7割以上を占める電力使用量を削減するため、生産方法や設備稼働時間の見直しをはじめ、さまざまな取り組みを行っています。生産段階でのCO<sub>2</sub>排出削減を行うことは、すなわちコスト削減・生産効率向上に寄与することにもつながります。

大田原工場	電力と重油のバランスを見直すことでCO <sub>2</sub> 削減に貢献しました。
(株)鈴民精密工業所	工場屋根の一部を断熱塗装にすることで工場内エアコンを1台撤去することができました。
JUKI電子工業(株)	雪害対応の中で取り組んだ工場の屋根を二重構造にすることで断熱効果が上がり、冷暖房費用の削減が見込まれます。

 CO<sub>2</sub>排出量と原単位

■ 総量 ● 原単位



## 大田原工場

## JUKI QCサークル世界大会を開催

11月の品質月間の行事として、「JUKI QCサークル世界大会」を大田原工場で開催しました。2011年から製造グループ会社の品質レベル向上、人材育成を目的として開催をしており、今回は、国内外グループ会社14拠点、296サークルから選考された4サークルが発表し、最優秀賞は、重機(上海)工業(有)のサークルが見事受賞しました。海外のQCサークル活動レベルの向上には目をみはるものがあり、JUKIのものづくりのグローバル展開が着実に成果をあげています。



最優秀賞を受賞した重機(上海)工業(有)のサークル



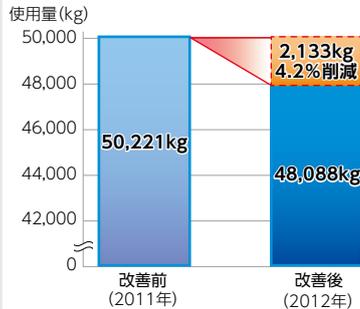
JUKI松江(株)

## LPGの使用低減に向けた取り組み

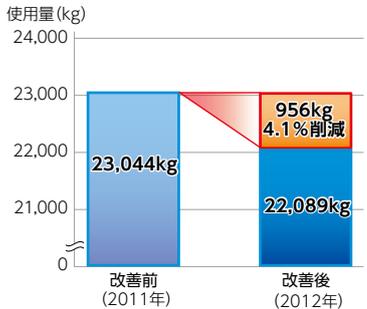
JUKI松江(株)では、塗装工程において、生産量にあわせ塗装ラインを計画的に集中稼働させ、LPG燃焼時間を短縮しました。

また、LPGを使用している空調設備の夏場稼働見直しを行いました。室内機3基中2基での30分ごと交互運転サイクルに20分の停止時間の追加と、環境的に冷却効果の低かった残りの1基に対し、インバータを追加し風量アップを図り、全体の冷却バランスをとることでエコモード稼働を実施しました。

塗装ラインでのLPG使用量推移



空調でのLPG使用量推移(期間7~9月合計)



※2011年の台当りLPG使用量実績台数で評価



新興重機工業(有)

## 生産工程や最終検査工程での改善を通じた電力削減・省資源化への取り組み

新興重機工業(有)では、生産工程の見直し改善で、塗装日産台数を27台アップさせ、一台あたりの消費ガス、電力を削減しました(ガス1.19kg/台、電力1.34kWh/台)。塗装生産工程の統合、下地調整工程の素材凹み修正によりラインアウト台数を削減したこと、また、

最終検査工程での素材凹み不良修正方法を改善したこと、汚れ不良台数の削減により、日産台数のアップにつながりました。新興重機工業(有)は会社一丸となり省資源に取り組んでいます。



## 製造

### 省資源への取り組み

工場や事務所から排出される廃棄物の削減や、日々の事業活動の中で、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の省資源活動を継続しています。



■ 鋳型の端材の再溶融

各工場	取引先やグループ会社間との通い箱化を推進してダンボール削減を推進しています。
重機(上海)工業(有)	ミシンの塗装工程で排出される粉体塗料を、塗料生産業者が回収するリサイクル活動を推進しています。 ゴミ分別を徹底するために、廃棄物の写真を撮って教育に活用したり、巡視をして廃棄物削減の意識向上に努めています。
上海重機ミシン(有)	分別を徹底して再生有価物を増やし廃棄物削減に取り組んでいます。
JUKI秋田精密(株)	プログラム改善等による端材削減に努め、廃棄物削減に取り組んでいます。

## 製造

## 廃棄物の削減

ものづくりの現場では、多くの生産設備を稼働させ、多くの原材料を使用し、熱源エネルギーを消費して日々生産活動を行っています。その過程で排出される廃棄物量を低減すべく、JUKIグループの製造拠点では、廃棄物自体を削減する取り組みや、排出廃棄物のリユース・リサイクルとして有価取引を推進する等、さまざまな取り組みを行っています。

JUKI会津(株)では製品の品質向上を図るためにウール(グラスファイバー)を鋳型に巻き付けています。従来は鋳型の周りすべてにウールを巻き付けていたため、大量のウールを消費し廃棄物を排出していました。そこで社内で鋳造解析を実施し、鋳型を改良することにより鋳型の品質が安定し、ウールの使用は必要最低限(一部製品ではウール廃止)になりました。結果としてウールおよび廃棄物の削減につながりました。

また、従来は廃棄していた廃ワックス液のリサイクル化についても検討を進めています。

廃棄物量の削減



JUKI吉野工業(株)、JUKI(株)

### 環境汚染の防止に向けた取り組み

JUKI吉野工業(株)では、毎年1回、地震、台風、洪水の発生により灯油の屋外タンク(少量危険物貯タンク)からの配管が破損し、灯油が漏洩した場合を想定し、緊急事態の模擬訓練を実施しております。訓練内容は、「緊急事態の対応手順」として標準化しており、それに従い、実施しています。実施後は訓練記録として、「緊急事態模擬訓練記録書」を作成し、有効性の評価を実施しています。

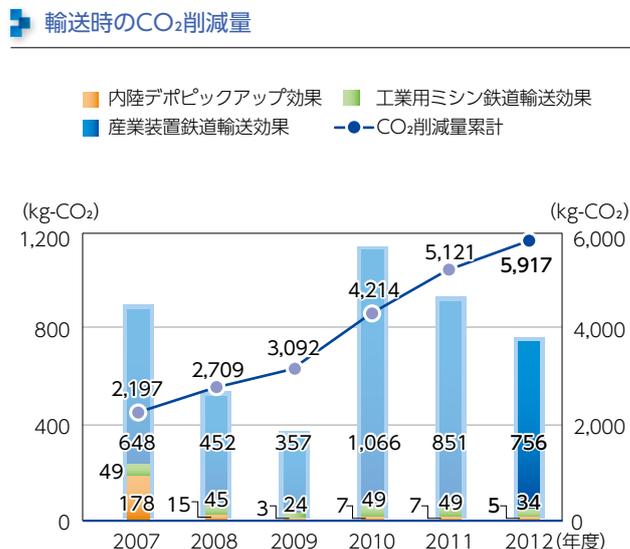
JUKI本社では、ガス吸収式冷温水機のばい煙測定を年2回実施し、大気汚染防止に努めています。実施にあたり、測定委託先の許可証・測定機器の校正証明を取り寄せ、信頼度を高めています。

## 物流・販売

## CO<sub>2</sub>、梱包資材の削減

JUKIグループは産業装置(秋田県横手市)および工業用マシン(栃木県大田原市)の出荷拠点から海上コンテナの内陸輸送において、トラック輸送を鉄道輸送へと変更し、物流段階でのCO<sub>2</sub>削減を実施しています。また、上海からの部品の輸入はSSE(上海スーパーエクスプレス)を利用し、本来空輸していた輸送経路を海上輸送+鉄道輸送にモダリティシフトするなど、積極的にグリーン物流を推進しています。

最近では業界を超えた家電メーカーなどとの鉄道輸送による共同物流にも取り組んでおり、その先駆的な物流改善の実践は物流業界紙などでも頻りに紹介されています。


 輸送時のCO<sub>2</sub>削減量




JUKI(株)

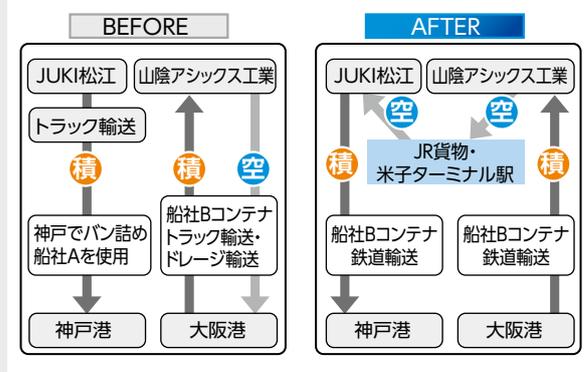
## アシックス社との共同物流

2012年5月、JUKIとアシックス社は鉄道輸送を利用した共同物流をスタートしました。まずアシックス社が輸入の実入りコンテナを大阪港経由、米子駅まで鉄道輸送し、山陰アシックス工業(株)にトレーラーで搬入します。空コンテナは米子駅に返却します。

一方、JUKIは輸出時に米子駅からその空コンテナをピックアップし、工場バンニングした後、実入りコンテナを米子駅に搬入します。そこから神戸貨物ターミナル駅まで鉄道輸送し、神戸港に搬入するという仕組みです。



## アシックス&JUKI 海上コンテナラウンドユースの仕組み



## Topics

### JUKIの物流の取り組み

今、物流の世界では“環境にやさしい物流”、“モーダルシフト”、“共同物流”といった言葉がトレンドとなっています。JUKIの物流部門ではこれらの動向・ニーズを先読みした物流のビジネスモデルを構築してきました。上述のアシックス社との事例は、両社にとって、コスト削減、CO<sub>2</sub>削減を実現した理想的な共同物流といえます。また、東芝メディカルシステムズ社との共同物流ではコンテナに両社の社名・ロゴが記載されるなど誰の目にもわかりやすい協業を実現してきました。今後もメーカーとして、物流の先駆的な役割を果たし、企業価値を高めていきたいと考えています。



JUKIロゴ入り31フィートコンテナ

環境報告

ステークホルダーへの責任

## 使用・保守 ー縫製機器事業・産業装置事業ー

### ノウハウを活かしたサービスの提供

縫製機器事業では、お客様に工場用マシンを販売するだけでなく、お客様にJUKI製品をより効果的にご使用いただくためのソフトサービスを提供する縫製研究所を設立し、約50年にわたり活動してきました。工業用マシン導入後にさらなる生産性向上を目的とした縫製工場診断、およびセミナー、新規工場、ライン拡張のために最適な設備仕様、台数、レイアウトをご提案するプラント設計等、長年の活動で蓄積されたノウハウを活かしたサービスをご提供しています。

産業装置事業では、JUKI設備をご購入いただいたお客様へは、海外も含めて各拠点のトレーニングセンターにおいて、操作教育およびメンテナンス教育を実施しています。講師は一定スキル以上を確保すべく、技術確認テストを実施しています。

また、設備は長期間ご使用いただくものであるため、お客様で実施していただく日常点検以外に、定期メンテナンスとして搭載精度確認・定期交換部品の交換・清掃などをJUKIスペシャルエンジニアが実施することにより製品の長期活用に貢献しています。



縫製工場診断



チップマウント保守点検

— JUKIの Mind & Technology —

# 人に、地球にやさしく、高付加価値化を目指す製品づくりに努めています

## 2012年度の「JUKI ECO PRODUCTS」

操作性・メンテナンス性の向上、高い性能の追求と、省電力・省エネの同時追求。開発段階で環境に関する38項目の評価を行い、その結果、特に高いレベルで環境配慮を実現した製品を「JUKI ECO PRODUCTS」として認定しています。主な2012年度の「JUKI ECO PRODUCTS」をご紹介します。

### 主なアセスメント項目

	材料・物品調達段階	製造・流通段階	使用段階	リサイクル・廃棄段階
環境安全・保水性	有害物質の排除・削減		騒音・振動の低減	環境負荷物質の分離容易性
省資源化	原材料の減量化		長期使用性	
	リサイクル材料の活用			
省エネ化		輸送効率の向上	消費電力の削減	
			消耗剤の消費量削減	
リサイクル性				再資源化
				分離・分別容易性

### AMS-221EN-HS3020/7200

ジーンズポケットの縫い付けを自動で行う電子サイクルミシン。X-Y送り駆動にエンコーダー付きパルスモーターを採用、素材の重さ・縫い目の長さにあわせ最小の電力で駆動します。



### MF-7500(D)、MF-7900(D) シリーズ

美しい縫い目を実現する世界初の機構を搭載した、新型の両面飾り扁平縫いミシン。糸切り装置付きミシンすべてに新型小型サーボモーターをダイレクトドライブ方式で搭載、消費電力の低減を実現しました。



### LU-2810シリーズ

自動車シート、ソファ等の大物・厚物縫製に必要な機能・性能を大幅に向上させたノンアパレル用ミシン。新型のタンク式自動給油を採用。給油の手間とオイルの使用量が低減されます。



### HZL-40/29Zシリーズ

汎用型家庭用ミシン。顧客にやさしいLEDライトを採用し、シンプル・コンパクトな安価タイプミシンで、省エネ・コストの両方で顧客が満足できる機種を目指しました。



### MO-6700DAシリーズ

セミドライヘッド高速オーバーロック/インターロックミシン。先進のドライ技術により耐久性に優れ、長期間の使用でも油の飛散がありません。グリス充填口を設け、メンテナンス性が向上しています。



## — 環境マネジメント —

# グループ各社の環境推進体制のもと、 環境活動への取り組みを推進しています

### 環境マネジメントの推進

JUKIグループでは、本社を含むグループの環境目標については、会社の最高意思決定機関である「経営戦略会議」で討議・決定しています。また、これらの目標展開や方策実施、環境保全活動の実行力を向上させるため、環境保全推進チームを設置し活動しています。

また、JUKI大田原工場では、2013年度より、ISO14001とISO9001の複合認証に切り替え、環境と品質のマネジメントレベルの向上につなげていきます。

### ISO14001取得状況

JUKIグループでは、本社を含め、全製造グループ会社でISO14001の認証取得を受けています。

2012年7月、本社と大田原工場が認証団体より「マネジメントシステム永年登録表彰」を受けました。この表彰は全員参加による環境改善活動の成果が認められたものです。これを機会に今後も継続的に環境改善活動に取り組んでいきます。



■ マネジメントシステム  
永年登録表彰(本社)



■ マネジメントシステム  
永年登録表彰表彰(大田原工場)

### 内部監査と外部審査

JUKIグループではISO14001を取得しているグループ会社において、各社のマネジメントシステムが有効に機能しているかどうかを、内部監査と外部審査によって確認しています。内部監査の手法として、被監査部門自ら監査を実施する自己監査を取り入れておりますが、2012年度はさらに監査チェックシートの雛形を作成し、自己監査、監査員による内部監査業務の効率化を推進しました。

### 法規制の順守

グループの取り組みとして、本社スタッフが中国の製造会社を対象に環境関連法規の順守状況の現地確認を実施しました。実務レベルでの順守状況を確認、改善事項を推奨し法規守の質的向上を図っています。

中国のグループ会社では平均43項目の環境関連法規について合否を判定しています。法律の順守で大事なことは要求事項を定期的なサイクルで回し、定められた事項を確実に点検確認すること、不具合が確認できたら速やかに是正処置を図ることです。そして、定められた事項や数値化された部分は確実に守ることです。

今回は環境関連法規の順守のマネジメントの仕組みと未然防止について確認しました。



■ 本社スタッフによる  
中国製造会社の現地確認



## — 2012年度環境目標と結果 —

# グループ共通の目標と各事業に即した環境目標を設定しています

## JUKIグループの環境目標

環境目標	対象	目標値	結果	2012年度の反省と今後の取り組み
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	国内製造会社	528kg/百万円(売上高原単位)	647kg/百万円 達成率:77%	<b>【CO<sub>2</sub>】</b> 本社では目標達成したものの、目標値を原単位にした国内・海外製造グループ会社では、CO <sub>2</sub> 削減より売上の落ち込みが大きく、未達成となりました。  <b>【廃棄物】</b> 本社では目標達成したものの、目標値を原単位にした国内・海外製造グループ会社では、廃棄物排出量の削減より売上の落ち込みが大きく、未達成となりました。  2013年度も、前年同様グループ全体の製造会社では、原単位目標を掲げ、生産センターが主導しグループ全体の最適化を進めることで、ムリ・ムダを削減していきます。  グリーン調達不適合は、2011年度に引き続き、2012年度も0件となりました。2013年度も継続して取り組みを行います。
	海外製造会社	569kg/百万円(売上高原単位)	837kg/百万円 達成率:53%	
	本社	2,763t(総量)	2,769t 達成率:100%	
廃棄物総排出量の削減	国内製造会社	101t/百万円(売上高原単位)	114t/百万円 達成率:87%	2013年度も、前年同様グループ全体の製造会社では、原単位目標を掲げ、生産センターが主導しグループ全体の最適化を進めることで、ムリ・ムダを削減していきます。
	海外製造会社	127t/百万円(売上高原単位)	149t/百万円 達成率:84%	
	本社	62t(総量)	50t 達成率:119%	
グリーン調達の推進	JUKIグループ共通	グリーン調達適合品の出荷・有害化学物質規制違反 0件	違反 0件	グリーン調達不適合は、2011年度に引き続き、2012年度も0件となりました。2013年度も継続して取り組みを行います。
環境法規制の順守		違反件数 0件	違反 0件	

## JUKI本社の環境目標

環境目標	対象	目標値	結果	2012年度の反省と今後の取り組み	
環境配慮製品への取り組み	① 新製品の「JUKI ECO PRODUCTS」認定	開発部門	市場導入新機種設計企画目標達成 100%	達成率:89%	2013年度も継続して取り組みを行います。「ECO PRODUCTS」では認定基準に未達の機種が1機種ありました。2013年度はすべての機種が認定されるように取り組みます。
	② 新製品の消費電力削減	開発部門	市場導入新機種従来機種比削減 100%	達成:9機種 未達成:1機種	
	③ 「JUKI ECO PRODUCTS」、環境への取り組みのPR展開	縫製機器ユニット	実施計画進捗率 100%	達成率:100%	継続して取り組みます。
		産業装置ユニット	実施計画進捗率 100%	達成率:100%	
	総務部	実施計画進捗率 100%	達成率:100%		
OA用紙購入量	本社	2012年度比3%削減	達成率:95%	継続して取り組みます。	
環境意識・環境知識の向上	本社	環境教育の実施計画実施100%	達成率:100%	継続して取り組みます。	

※このデータは、JUKIと国内・海外製造グループ会社の2012年度の環境目標と結果についてまとめたものです。  
 ※JUKI大田原工場のデータは国内製造グループ会社に含まれています。

### Topics

#### 本社ビルの省エネ診断

2009年に竣工した本社ビルも丸3年が経過しました。当初より蛍光灯の間引きや、空調設定の変更等さまざまな省エネ活動をしてきましたが、省エネルギーセンターの専門家のアドバイスを受けてさらなる取り組みを検討すべく受診しました。ビルの省エネでは、設計段階の想定に対し実際の使用状況を継続的に見直すことが大事であり、設備の使用状況、運転方法を見直すことで省エネルギーにつながるのアドバイスをいただきました。具体的なアドバイスとしては、地下駐車場等からの過大な外気取り入れの見直し、居室の照度の低減、コンプレッサーの噴出圧力低減など19項目のご提案をいただきました。すぐに取り組みもの、中長期で計画するものに分けて、実行していきます。



— 環境パフォーマンス/事業活動による環境への影響 —

# 事業に関連する環境負荷を明らかにして 環境パフォーマンスの改善を進めていきます

## 環境パフォーマンス

## 事業活動における 環境への影響

	項目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
JUKI	CO <sub>2</sub>	2,953 t-CO <sub>2</sub>	3,309 t-CO <sub>2</sub>	2,849 t-CO <sub>2</sub>	2,769 t-CO <sub>2</sub>
	電力	4,685 千kWh	5,039 千kWh	4,427 千kWh	4,260 千kWh
	灯油	0 kℓ	0.3 kℓ	0.3 kℓ	0.6 kℓ
	A重油	13 kℓ	0 kℓ	0 kℓ	0 kℓ
	都市ガス	102 千m <sup>3</sup>	192 千m <sup>3</sup>	134 千m <sup>3</sup>	133 千m <sup>3</sup>
	ガソリン	45 kℓ	48 kℓ	44 kℓ	45 kℓ
	水	14 千m <sup>3</sup>	13 千m <sup>3</sup>	11 千m <sup>3</sup>	12 千m <sup>3</sup>
	排水	13 千m <sup>3</sup>	22 千m <sup>3</sup>	21 千m <sup>3</sup>	22 千m <sup>3</sup>
	廃棄物最終処分量	0 t	0 t	0 t	0 t
	廃棄物等総排出量	181 t	105 t	57 t	50 t
国内製造グループ会社	CO <sub>2</sub>	23,299 t-CO <sub>2</sub>	28,402 t-CO <sub>2</sub>	26,737 t-CO <sub>2</sub>	22,781 t-CO <sub>2</sub>
	電力	29,474 千kWh	36,550 千kWh	35,153 千kWh	32,632 千kWh
	灯油	177 kℓ	202 kℓ	193 kℓ	182 kℓ
	A重油	2,020 kℓ	2,276 kℓ	1,996 kℓ	1,118 kℓ
	液化石油ガス (LPG)	276 t	386 t	368 t	319 t
	ガソリン	45 kℓ	64 kℓ	59 kℓ	55 kℓ
	軽油	35 kℓ	49 kℓ	42 kℓ	40 kℓ
	アセチレン	36 kg	65 kg	86 kg	122 kg
	コークス	0 kg	0 kg	0 kg	0 kg
	メタノール	0 kg	0 kg	0 kg	0 kg
	水	262 千m <sup>3</sup>	333 千m <sup>3</sup>	260 千m <sup>3</sup>	256 千m <sup>3</sup>
	排水	242 千m <sup>3</sup>	276 千m <sup>3</sup>	234 千m <sup>3</sup>	108 千m <sup>3</sup>
	廃棄物最終処分量	620 t	604 t	485 t	356 t
	廃棄物等総排出量	3,473 t	5,103 t	5,521 t	4,005 t
海外製造グループ会社	CO <sub>2</sub>	12,146 t-CO <sub>2</sub>	19,887 t-CO <sub>2</sub>	23,743 t-CO <sub>2</sub>	19,879 t-CO <sub>2</sub>
	電力	18,379 千kWh	29,098 千kWh	34,660 千kWh	30,114 千kWh
	灯油	0 kℓ	0 kℓ	2 kℓ	2 kℓ
	都市ガス	0 千m <sup>3</sup>	0 千m <sup>3</sup>	0 千m <sup>3</sup>	0 千m <sup>3</sup>
	液化石油ガス (LPG)	445 t	839 t	1,054 t	752 t
	ガソリン	77 kℓ	111 kℓ	120 kℓ	93 kℓ
	軽油	166 kℓ	325 kℓ	361 kℓ	231 kℓ
	アセチレン	24 kg	24 kg	24 kg	24 kg
	天然ガス (NG)	23,552 Nm <sup>3</sup>	49,598 Nm <sup>3</sup>	69,505 Nm <sup>3</sup>	50,717 Nm <sup>3</sup>
	水	248 千m <sup>3</sup>	347 千m <sup>3</sup>	320 千m <sup>3</sup>	235 千m <sup>3</sup>
	排水	213 千m <sup>3</sup>	312 千m <sup>3</sup>	281 千m <sup>3</sup>	227 千m <sup>3</sup>
	廃棄物最終処分量	1,226 t	1,557 t	1,486 t	1,564 t
	廃棄物等総排出量	2,415 t	4,192 t	4,582 t	3,542 t

※このデータは、P4に掲載したJUKI(株)と製造グループ会社のパフォーマンスについてまとめたものです。  
※JUKI大田原工場のデータは国内製造グループ会社に含まれています。

### 2012年度 INPUT

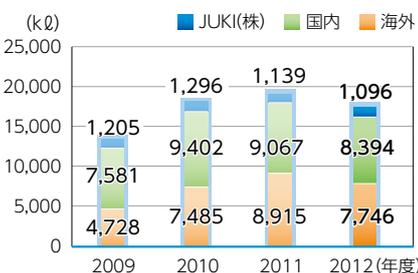
<b>エネルギー</b>	<b>20,576 kℓ</b> (原油換算)
電力	67,007 千kWh
A重油	1,118 kℓ
軽油	271 kℓ
ガソリン	193 kℓ
灯油	184 kℓ
都市ガス	133 千m <sup>3</sup>
液化石油ガス(LPG)	1,071 t
アセチレン	0.146 t
天然ガス(NG)	50,717 Nm <sup>3</sup>
<b>水</b>	<b>503 千m<sup>3</sup></b>
<b>原材料</b>	<b>17,305 t</b>
金属材料	13,669 t
プラスチック材料	175 t
ゴム	69 t
紙(事務用OA用紙は除く)	167 t
その他(部品、原材料など)	3,226 t

### 2012年度 OUTPUT

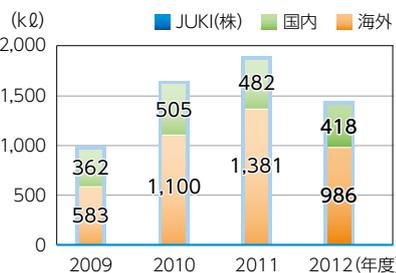
<b>主要製品生産量</b>	<b>12,941 t</b>
<b>CO<sub>2</sub></b>	<b>45,429 t-CO<sub>2</sub></b>
<b>排水</b>	<b>357 千m<sup>3</sup></b>
<b>廃棄物等総排出量</b>	<b>7,597 t</b>
一般廃棄物排出量	819 t
産業廃棄物排出量	6,523 t
特別管理産業廃棄物排出量	255 t
<b>リサイクル量</b>	<b>5,200 t</b>
<b>最終処分量</b>	<b>1,920 t</b>

※このデータは、P4に掲載したJUKI(株)と国内・海外製造グループ会社のパフォーマンスについてまとめたものです。  
※JUKI大田原工場のデータは国内製造グループ会社に含まれています。

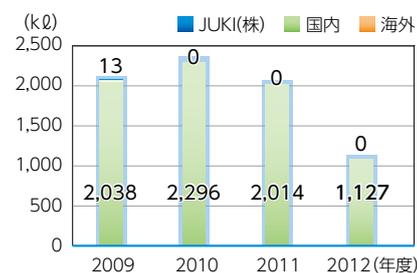
### 電力(原油換算)



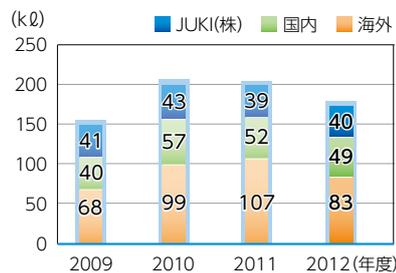
### 液化石油ガス(LPG)(原油換算)



### A重油(原油換算)



### ガソリン(原油換算)



— ステークホルダーの皆様との信頼関係づくり —

ステークホルダーとの良好な信頼関係を築き、責任ある行動を推進していきます

ステークホルダーとの関わり



株主

財務体質のさらなる改善と株主価値の向上を図るとともに、安定的な配当を実施するよう努めています。また、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを積極的に行うために、企業情報を積極的かつ公平に開示しています。

お客様

JUKIグループが提供する商品やサービスを末永くご利用いただくことで、お客様にとっての生涯価値を最大限に高めることを保証。お客様と私たちとの間で永続的な信頼の絆を深めていける関係を目指します。

お取引先

お取引先との「共存共栄」という観点から、①公正で公平な競争、②契約順守、③定期的な市況説明、④「JUKIグループグリーン調達ガイドライン」の説明と啓発などを通じ、互いに切磋琢磨し成長していける関係の構築に努めます。

従業員

JUKIグループが目指すのは、国籍・人種・性別を超えて雇用と成長の機会を提供するグローバル企業。事業展開するそれぞれの国で、従業員がいきいきと働ける組織・風土を確立し、ES(従業員満足)の向上を図ります。

社会

良き企業市民として地域社会との交流を深めています。また、国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の順守はもとより、その文化や習慣を尊重し、現地の発展に貢献するよう努めています。同時に、環境問題にも真摯に取り組むことで、社会から見ても価値あり魅力ある企業となることを目指します。

## — お客様・取引先とともに —

# お客様の声を、事業活動・製品開発に適切に反映して、お客様満足度の向上に努めています

## 顧客満足度の追求

縫製研究所では、縫製工場の生産性向上を図るための工場診断指導、人材育成、および管理レベルの向上を目的としたマネジメントセミナーをはじめ、作業改善、品質管理、アタッチメント製作、さらにはお客様のニーズに基づいて開発した商品分解セミナーなど多岐にわたり開催しています。現在、こうしたセミナーの受講者は、国内外あわせて約70,000名を超え、お客様が抱える問題の解決をサポートしています。



縫いの勉強



ミャンマーでのセミナー

産業装置ユニットでは、2004年度からJUKIのマウンターをご利用になられているお客様を対象としたCSアンケート調査を実施して、「品質・機能」「アフターサービス」など、6つの項目の総合評価で顧客満足度の分析を行い、継続的にサービス品質の向上を図っています。

2012年度は、中国の販売会社、秋田の製造拠点、本社にてCS調査報告会を行い、お客様の声を社員で共有し、サービスや製品に反映すべく、取り組んでいます。

データエントリー機をご利用になられているお客様11社をJUKI本社にお招きし、システムご使用にあたってのセミナーとして、管理者と運用責任者に分けた構成で、それぞれのお客様の課題について討議しました。この集まりが、お客様同士の情報交換の場となり、連携の輪を広げるきっかけとなっています。



お客様同士の情報交換

## 品質保証・製品安全

お客様に喜ばれ、満足いただける製品・サービスを提供し続けることによって、お客様と強い絆で結ばれることが私たちの願いです。この願いを実現するため、総合品質経営を継続的に推進しています。品質情報・課題の共有化と横連携を目指した「品質責任者連絡会の運営」、品質意識の高揚と力量向上を目指した「社内品質教育」や「QC検定の受検推進」などの活動を継続しています。

また、お客様に安心して製品をお使いいただくため、各国の安全情報を入手し、また最先端技術動向を捉えて製品提供をしております。

2011年よりユーロ圏で新たに追加された安全規制等の規制を順守し、新製品はもとより、過去に開発された製品も含めて見直しを行い、公に宣言しています。

## 品質問題発生時の対応

製品出荷は、100%良品とすべく仕組みの改善を図りながら行っていますが、万が一品質に問題があるときには、JUKIの販売会社を経由してお客様へ対応しています。品質問題の情報には、発生原因の追究とともにスピーディーに対応していますが、グローバルな展開に伴い行き届いていないことも認識しているため、さまざまなネットワークを通してお客様からのお声を受け止めていきます。

## 協力会社との交流

JUKI大田原工場において、11月にお取引先109社112名をお招きし、「2012年度JUKI協力会研修会」を開催しました。この研修会は、取引の品質向上とJUKIとの共存共栄を目的に、毎年品質月間に開催しています。

特に優秀な結果を残されたお取引先8社に対し「感謝状」を贈呈し、48社に「保証納入認定書」を交付しました。



協力会表彰

— 従業員とともに —

# 多様な人材がともに活躍でき、 安全な職場づくりを進めています

## 人材育成・多様性の尊重

JUKIでは社会的な責任を果たし、JUKIの経営理念と価値観を体現できる従業員とグローバルな視点で活躍できるリーダーの育成を目指しています。

キャリア開発や教育においては、現場研修、海外勤務など、OJTを重視していますが、そのほかにも、マネジメントや専門分野の研修や、自己啓発や資格取得の支援、年間特別表彰やJUKI QCサークル世界大会開催など、さまざまな形の人材育成を進めています。

## 労働安全衛生

多摩消防署の指導・協力のもと、11月30日、多摩本社にて総合防災訓練が実施され、地震発生による落下物等を回避するための行動、火災発生を想定した避難誘導訓練を行いました。

今年は初の試みとして、「煙ハウス」が設置され、避難途中の火災による煙の性質を社員に疑似体験してもらいました。

また、多摩消防署によるAED装置の操作指導後に、実際の操作や心肺蘇生法を多くの方に体験してもらいました。今後も定期的に訓練を行っていきます。



■ 煙ハウスを使った避難訓練の様子



■ AED装置の操作指導の様子

## 働きやすい職場づくり

JUKIグループでは、障がい者の方々のための雇用機会拡大や雇用維持の努力、建物の設備やレイアウト、職務設計などの働きやすい環境づくりに心がけ、2012年現在、40名近くの障がい者の方々が国内で活躍しています。

障がい者の方々もグループの一員として公正な評価と処遇を受け、ほかの社員とともに能力を充分発揮できるキャリアづくりや研修教育の機会を持ち、事業を発展させることがJUKIの目標です。



重機(中国)投資(有)

### 中国グループ会社 経営幹部育成のMTP教育訓練を実施

2011年より、中国での現地化推進を図ることを目的としたMTP(Management Training Program)研修を毎年11月に重機(中国)投資(有)にて実施しています。

今回は、中国にあるグループ会社6社から推薦された経営幹部候補の管理職21名が参加し、日本産業訓練協会所属の外部講師より、マネジメントの基礎から良好な管理を実現するための実践的な方法を体系的に学びました。こうした研修を積み重ね、世界に通じるグローバルな人材育成を推進していきます。



■ 研修の様子



■ 研修に参加した従業員

## － 株主・投資家とともに －

# 適時・適切、公平性に留意した企業情報の開示を通じて経営の透明性を高めていきます

## 機関投資家の皆様に向けた JUKI事業の理解促進

投資家の方々にJUKIへの理解を深めていただくとともに、長期に株式を保有していただける安定株主を増やすために、年2回の決算説明会の開催や、証券アナリスト・ファンドマネージャーに対する個別取材の対応を行っています。また、ホームページには、決算短信や有価証券報告書、事業報告書(株主の皆様へ)などの決算関連資料のほかにも、経営方針や事業内容など、理解を深めていただくための情報を積極的に開示しています。

## 個人株主の皆様に向けた JUKI事業の理解促進

JUKIの事業の理解をより一層深めていただくために、事業の概況と決算内容をまとめた「株主の皆様へ」を全株主様に年2回送付しています。株主総会終了後には、主力製品の見学会を実施しています。今後もJUKIの事業をより深くご理解いただけるように工夫していきます。

## － 地域社会とともに －

# 世界各地で地域と良好な関係を築き、 JUKIらしい活動を展開しています

## 地域社会への貢献

ジューキ・ベトナム(株)では、学生の就業支援の一環として、

- ①インターンシップの受け入れ(2012年度 46名)
- ②学生の工場見学(2012年度 130名)受け入れ

また、医療支援として

- ①障がい者の治療費支援チャリティー募金参加
- ②心疾患労働者への治療費支援

等の地域貢献活動を実施しています。



工科大奨学金授与式



学生の工場見学を受け入れ

## 地域コミュニケーション活動事例

JUKIグループでは、毎年近隣の大学生・高校生を対象にインターンシップ制度を実施し、就業体験の場を提供したり、社会科の授業の一環として工場見学などの受け入れを行っています。

本社は、毎年、近隣の小学5年生を本社に招き、会社施設や製品ショールームの見学会を実施しています。昨年は72名の児童が、建物全体のセキュリティなどを管理する集中監視室や、環境に配慮したルーフガーデン等の会社設備や製品ショールームの見学、また家庭用ミシンで巾着袋の縫製実習を体験しました。子どもたちは、一瞬でボタンが付く様子に驚くと同時に、身近な生活とJUKI製品との関わりを学んでいただきました。



小学5年生 見学会の様子

**JUKI**

**JUKI株式会社**

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

TEL 042-357-2217

<http://www.juki.co.jp>